

ルート
1
ルートテーマ

海に思いを馳せる
「太平洋を眺める潮風のルート」

ルート方向性

- 海岸防潮堤に沿って、太平洋を望み、潮風を感じることでできるルート
- 祈念公園と連携しながら、海岸防潮堤に沿って、太平洋の眺望を重視した視点場を設定する。
- 客船寄港時の来訪者や、祈念公園への来訪者も利用する散策の場として考慮。
- 背後の祈念公園と一体となった散策等の利用を可能とする。

水辺の現況

- 雲雀野防潮堤は、震災を踏まえて新たな海岸防潮堤として整備予定。
- 防潮堤沿いは被災し、散策路が無いため、海岸に沿っての散策は厳しい状況。
- 展望台も被災したが、防潮堤からは天気の良い日に往来する船や遠くの島々が遠望できる。



利活用方策

- 石巻湾からの心地よい風が吹き、海岸に打ち寄せる波の音を聞きながら、往来する船や遠くの島々を眺められ、景色を眺めながらくつろげる場所として利用する(⇒ベンチなど休憩施設を設置)
- 利用を推進する観点から、本ルートと祈念公園を利用したウォーキング講習会やレクリエーションなどを企画実施する。



海辺を眺められるベンチのイメージ

- サイクリングロードとしても利用可能なようにする。
- 臨港道路の横断は、安全性が確保できるように検討する。



海辺のウォーキングイメージ

- ルートの維持管理や利活用を推進するため、市民団体による清掃活動やイベント企画・実施などを推進する。



清掃活動イメージ

- 石巻港の客船寄港やイベントと祈念公園を連携し、訪れる乗客に、この地で起きた震災と石巻の復興の歩みを知ってもらう。



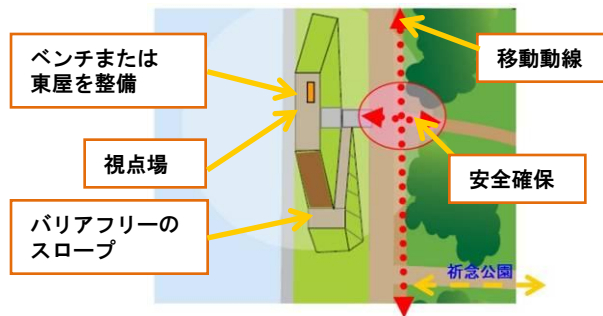
客船寄港イメージ



港湾感謝祭イメージ

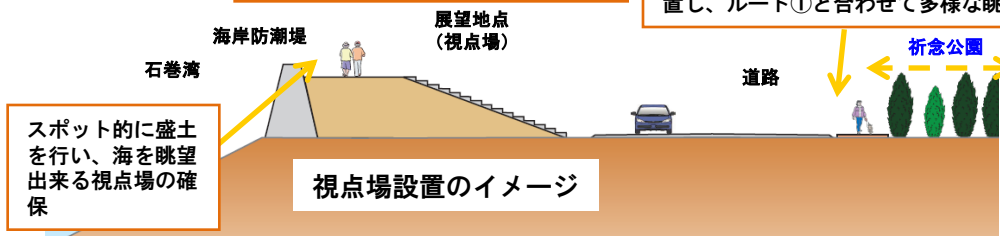
ルートイメージ

- 海岸防潮堤防に沿って、海を眺める視点場を設ける。
- プロムナードとしてのルートは公園敷地内とも連携させ、海辺を眺める視点場は祈念公園とも分担して多様な眺望を創出する。
- 安全を確保しつつ、ルート①と祈念公園の往来もできる設定を考慮



石巻港の客船寄港と連携したルート

公園内にも海を眺める視点場(盛土等)を設置し、ルート①と合わせて多様な眺望を確保



※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

向
け
現
に

- 県で整備する海岸防潮堤や復興基本計画に基づく祈念公園と調整し、海を眺望できる視点場の確保を検討。
- 背後の道路や祈念公園整備等と合わせ、ルートの周遊性・連続性・安全性を確保する。
- 利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

拠点
B
拠点テーマ

「鎮魂」「祈り」「震災アーカイブ」「復興支援に対する感謝」及び「離島航路との結節点」「マリナー機能」「客船寄港との連携」等
「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」

以下の2つの機能が隣接した一大拠点とする。

- 公園：震災の記憶を伝承する鎮魂・祈りの公園ができることから、鎮魂・祈り・震災アーカイブ・復興支援に対する感謝をテーマとした空間となる。
- 水上交通・水面利用：離島航路との結節点、船舶を係留するマリナー機能、客船寄港との連携等、水上交通や水面利用の拠点と位置づけ、船のある風景も残る空間となる。

拠点方向性

拠点の現況

- 文化センターや市立病院周辺は津波により大きく被災しており、祈念公園として整備予定の区域に入っている。
- 内港地区は、震災後も引き続き離島発着所として利用されている。



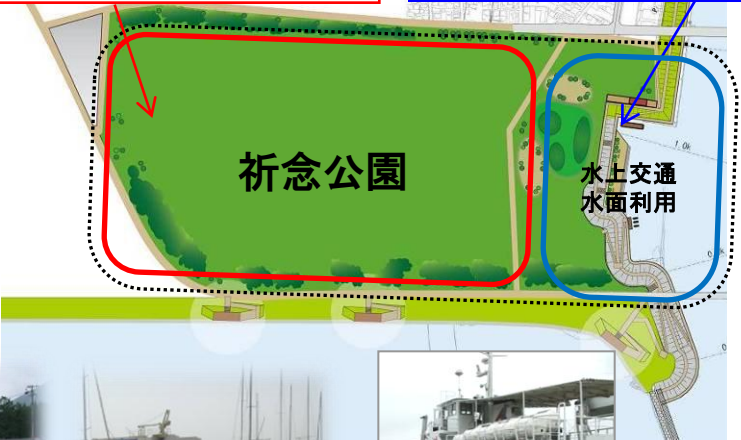
拠点イメージ

- 祈念公園
 - 震災の記憶を伝承する、鎮魂・祈りの場となる。
 - 鎮魂と慰霊のモニュメントや催事の広場、伝承の施設等が考えられる。
 - 地域の絆を深める場所として機能するように、イベント広場や、子供も楽しめる施設も必要。
 - 潮風に強い樹種の植樹帯などの工夫をする。

- 水上交通、水面利用
 - 離島航路発着所の復旧と合わせて水辺の拠点整備で機能拡大も可能
 - プレジャーボート等を収容するマリナー機能を確保する。
 - 停泊する船舶や日和大橋や河口などを眺めるビューポイントとしても楽しめる場所とする。



(北海道奥尻町 徳洋記念緑地公園)



※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

利活用方策

- 祈念公園
 - 3.11の記憶を後世に伝え、震災により亡くなった方の慰霊祭等の開催。
 - 鎮魂と祈りの空間として常に開放された空間や施設の立地
 - 親子や、地域の絆を強くすることを目的に、オープンスペースを活用した各種イベントの開催ができる。
 - 築山や高台があれば、海や川、周辺の眺望も得られるポイント、避難にも活用できるスペースの確保も可能。



- 水上交通、水面利用
 - 離島航路発着所は、離島への玄関口であるとともに、島から戻ってきた観光客が思い出の品を買い求める場所としても活用できる。また、拠点内に石巻の名産品からお土産、絵葉書などを扱う観光センター的な機能も想定できる。
 - 従来よりプレジャーボート等の不法係留船が川沿いに見られており、船舶の収容を図る。
 - プレジャーボートの収容場所では、船や海洋レクリエーションについて学べる学習会の開催などが考えられる。
 - 広場、築山などの工夫や、釣りを楽しんだり、運動を楽しむ場所としても活用する。
 - ルートや拠点を巡る散策等が可能のように、プロムナードの全体や現在位置がわかるように案内看板やサインを整備する。

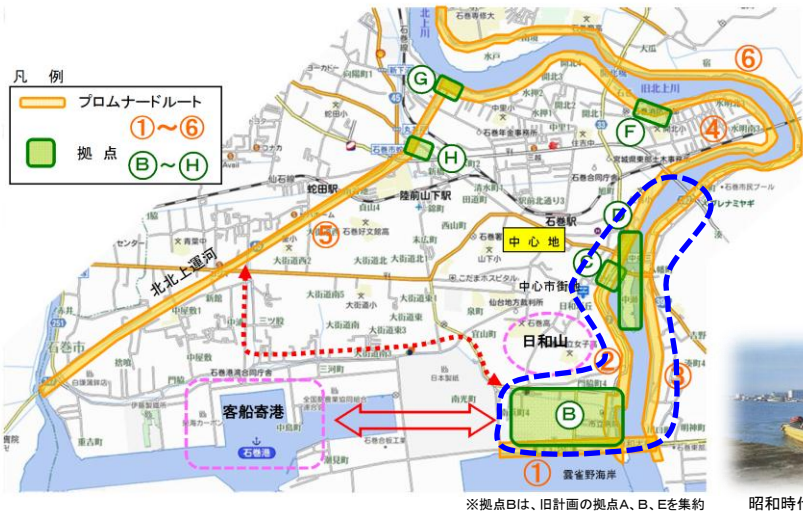


- 実現に向けて
 - 国で整備する河川堤防や復興基本計画に基づく祈念公園、及び離島航路等と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置や利活用の工夫について具体を検討していく。
 - 利用者・管理者等の中で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

6. 旧北上川左右岸下流のルート、拠点、ポイント

6-1 旧北上川左右岸下流のポイント

旧北上川左右岸下流の位置



- 門脇から住吉界限は、舟運時代に入船出船そして蔵が立ち並び栄えた地域であり、ところどころに当時の面影が残る地域であった。(石巻絵図に当時の繁栄ぶりが描かれている。)
- 震災により川沿いや中瀬は壊滅的な被害を受け、無堤地区だった旧北上川沿いには新たに堤防が整備される。
- 震災前の川沿いにはプレジャーボートやヨットなどの船舶が停泊していたが、現在は既に係留船が川沿いに戻りつつある(不法係留船)。
- 住吉公園は、昔からの石巻を代表する観光スポットであり、「袖の渡し」や「芭蕉の参詣」などの物語を今に残している。
- 中瀬は、石巻を代表する観光ポイントとして石ノ森萬画館をはじめ多くの観光施設があり、家族連れなどで賑わっていたが、津波により壊滅的な被害を受けており、再生が必要となっている。
- 左岸側はかつては漁港が立地し、造船のまちの姿が今に残されている場所であった。震災後は新たに産業集積地区及び居住地域となる。



昭和時代に門脇と湊を往復していた渡船

石巻絵図



震災後の内港地区と係留船



震災前後の中瀬



震災前



震災後

津波により、施設や史跡が被災し、桜並木も消滅

H23.10撮影

震災前



旧北上川右岸

震災後



津波により川沿いのまちなみが失われた。

震災前の中瀬のイベント



内海橋下流の復興マルシェの賑わい



雄島と住吉公園



震災後に残った造船所



ルート
2
ルートテーマ

いにしへの石巻湊と賑わいを訪ねる
「旧北上川と石巻湊ルート」

ルート
方向性

- 人々が集い、安全に快適に水辺と緑を感じながら散歩できるルート
- 中心市街地からの観光周遊やプロムナードの各拠点間の回遊性を確保するとともに水辺に近づきやすいように配慮
- 移動途中で休憩し、水辺の景色を眺められるように配慮
- プロムナードから親水空間に行き易いように工夫する。(階段やスロープ)
- 水辺に親しむ・変化をもたせる・植栽等などの工夫をする。

水辺の現況

- 現在は満潮時の浸水被害に対して、応急対応として浸水防止壁が整備されており、今後は川沿いに地震・津波・高潮に対して粘り強い堤防が整備される。
- 河岸の道は内海橋から門脇方面へ行く幹線路のため交通量が多く、また現状は歩道が無いため安全に歩くことは厳しい。



砂利道で歩道がなく、安全に散歩することは厳しい。



川沿いにはT.P.+4.5m～7.2の新たな堤防が整備される。

ルートイメージ

距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮

夜間でも通行可能なよう等間隔に照明を設置(ライトアップ)

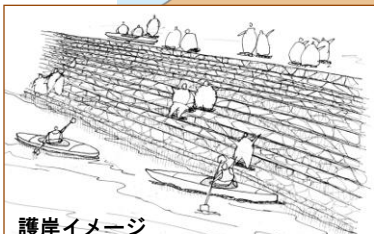
安全管理のため転落防止柵を設置

T. P. +4.500m

※もし人が落ちた時に上がってこられるよう梯子や浮環を等間隔で設置

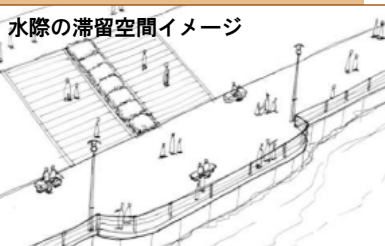
ポイントに行きやすいよう階段やスロープを設置

部分的に追加盛土を行い、植栽・ベンチを設置



護岸イメージ

一部には水辺に触れることができ、昔の石積護岸を思い出すような護岸を設置する



水際の滞留空間イメージ

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置・水辺の変化を持たせる

※堤防や護岸はイメージであり今後の検討によって変更があり得ます。

向
実
け
現
に

- 国で整備する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画や水辺の工夫等、具体を検討していく。
- 利用者、管理者等の中で施設や空間、スペースの利用ルール・管理区分等を調整していく。

利
活
用
方
策

- 門脇や住吉地区は、江戸から明治にかけて千石船やひらた船が接岸した石巻湊の中心地であり、被災を免れた史跡を探访することができる。
- 石巻の既存の散策路や堤防上では散歩やウォーキングを楽しんでいる方を多く見かける。休憩施設や親水空間へ行きやすい工夫を整備し、住民の憩いの場を創出する。



史跡探訪のイメージ



ウォーキングイメージ

- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会等により水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や植栽管理(植栽ポット)を推進。



植栽ポットイメージ

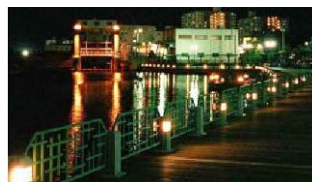


河川清掃イメージ

- 水辺を散歩しながら旧北上川や水辺の環境などを学べるような施設を検討。
- 人々に安らぎを与える景観やデザインに配慮
- 中央街区付近は観光拠点の場として歩きやすい木材チップ等の舗装を施し、夜間の安全にも寄与する照明やフットライト等を検討する。
- ルート・拠点間の移動を容易にするため、安全を確保した上でサイクリングロードとしても活用する(レンタサイクルの発着所を整備)



憩いの空間イメージ



夜間のプロムナードイメージ

いにしへの石巻湊と賑わいを訪ねる
「旧北上川と石巻湊ルート」

利 活 用 方 策

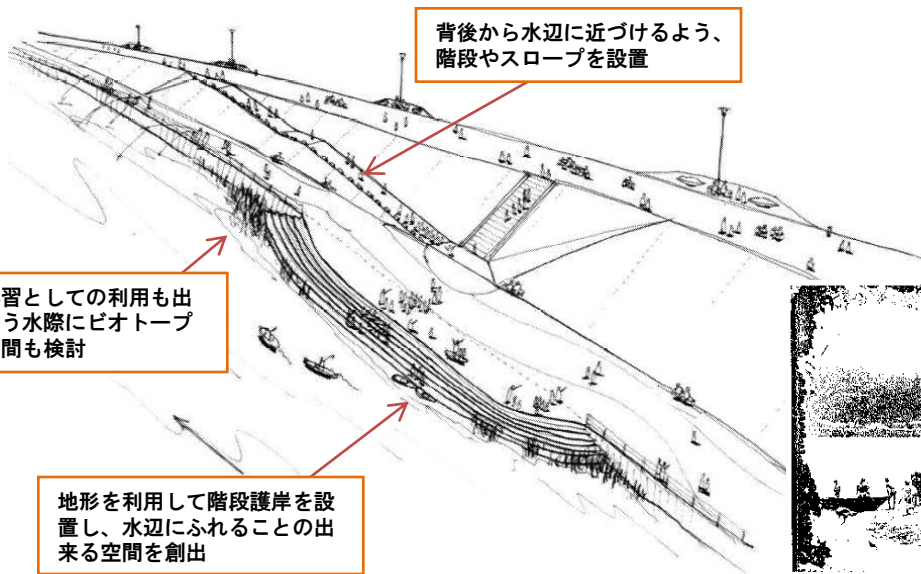
- 小学校の環境学習の場(水辺の楽校)として、旧北上川の歴史や、河川環境を学ぶイベント等の開催を検討
- カヌー教室・川下りイベントや学校の漕艇部等の発着所としての活用を検討



環境学習の例(生物調査)

親 水 空 間 イ メ ー ジ

- ◆ 例えば、住吉小学校付近に水際に突き出した部分が残される空間がある。これを利用して、階段護岸の設置等により親水空間を創出するとともに、小学校の環境学習等としての利用も可能とする。



背後から水辺に近づけるよう、階段やスロープを設置

環境学習としての利用も出来るよう水際にピオトープ的な空間も検討

地形を利用して階段護岸を設置し、水辺にふれることの出来る空間を創出

親水空間の創出イメージ



現 況

※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。



写真提供 藤井 幸治 大正初期の北上川右岸 住吉小学校前



当時、北上川で泳ぐ住吉小学校の児童達(昭和初期)

大正・昭和初期の住吉小学校での河川利用の様子

- ◆ 住吉周辺の水辺では、大正から昭和初期にかけて住吉小学校の児童が学校前の河原で水泳を楽しんでいた歴史がある。

「石巻地方研究 第4号」「目で見える石巻・桃生・牡鹿の100年」より